

SENBATSU TENNIS

相生学院 連覇へ快勝

息の合ったプレーで東山に快勝した相生学院の田沼・細川(右)組＝貞末トミ撮影



厚い選手層 東山に雪辱

男子で連覇を狙う相生学院が、地力を見せつけて初戦を突破した。同じ近畿地区、しかも昨夏の高校総体準々決勝で敗

れた東山(京都)が相手でも「硬さがあった」と荒井監督。第1シングルスで3-6で落とされたが、動揺する

田沼・細川の第1ダブルスは、抜群の読みと巧みなラケットさばきでボレーを連発して6-1と圧倒。勢いを止められた」と東山の羽谷監督を嘆かせると、第2シングルの竹元も正確なショットを武器に快勝し、あっさりと主導権を奪い返した。

「日本の頂上を取って世界へ」を目標に掲げる通信制の同校らしく、前回優勝に貢献した2人の2年生が海外転戦のため今年には不参加。それでも選手層の厚さは際立つ。「2人が遠征先からメールで励ましてくれた。絶対に優勝したい」と同級生の細川が力を込める。期待が膨らむ滑り出しだ。(前田剛)

男女の2回戦32試合が行われた。男子は昨年優勝の相生学院(兵庫)や柳川(福岡)などシード4校が順当に勝ち上がった。大分舞鶴(大分)や初出場の宮崎日大(宮崎)、34年連続出場

第34回 全国選抜 高校テニス 第2日
(23日・博多の森 テニス競技場)

昨年準優勝の仁愛女(福井)などシード勢はいずれも快勝。野田学園(山口)は東日本大震災の影響で前回大会出場辞退した日大東北(福島)を破り、鳳凰(鹿児島)も16強に駒を進めた。(試合は降雨の影響で3ポイント先取で打ち切り)